

高齢者の生活時間構造に関する研究
— 高齢者・子・孫世代との比較 —
磯部美津子

(県立島根女子短大)

目的 高齢者の生活構造における活動範囲の特長は、経済面では利タイヤ後、年金収入に固定され、身体面では機能低下に伴う社会的活動範囲の狭まりあり、更に将来にわたる時間的予測もつきにくいなどがある。本研究においては、生活の根底に不安定性を持つ高齢者の生活時間の構造を明らかにし、豊かな生活を送るための基礎的資料を得ること目的とする。

方法 年代別に3区分し、男女別に、平日（高齢者にあつては外出日）と休日の生活時間を中心として聴き取り調査を行った。

結果 高齢者の主要な分析結果は次のようである。①家庭で過ごす時間・室内で過ごす時間は加齢とともに上昇する。②人との接触時間、会話時間は加齢とともに減少する。③60歳から64歳が室外で過ごす時間が多い。④高齢者の平均睡眠時間は8時間以上で、男性は9時間を超え、女性より多い。⑤同居家族との会話時間は60歳から75歳が最も多い。子世代は高齢者の約1/2であり、孫世代はわずか20分程度である。⑥高齢者の楽しみでは「友人と交流すること」が多い。⑦60歳代は仕事で外出、70歳代は病院受診で外出と内容が異なる。⑧高齢者は趣味、テレビを楽しみとするものが多い。以上より、高齢者に生きがいを与えるためには、外部との結びつきを大切にさせる必要がある。